

日本医学教育学会分野別認証検討委員会では、その認証評価の基準となるものを医科大学・医学部に提供する目的で、世界医学教育連盟(WFME)が作成・公表している医学教育の基本的スタンダードに基づいた日本版を提供している。この初版は2003年に公表され2012年にこの委員会で日本版を作成し公表した。その後、WFMEから2012年12月に改訂版が公表され、これをもとに、その翻訳にいくつかの日本版注釈を書き加えた「医学教育分野別評価基準2012年改訂 日本版」を作成した。これは2013年7月20日、千葉大学における医学教育学会総会の直前に公表し、その後、いくつかの細かい修正点を

加えている。

2013年12月の新潟大学ならびに2014年1月東京医科歯科大学の学部評価の試行を踏まえて、いくつかの大きな改訂をくわえた。これらを取り入れたものを2014年4月の医学教育学会の理事会に諮り、1.20版として公表した。今後とも、日本の文化を踏まえながらも、国際的に認証される使いやすい基準を目指し、改訂を続けていきたい。

副委員長：吉岡俊正，委員：福島統，奈良信雄，田邊政裕

23. 女性医師キャリア教育検討委員会

木下 牧子（委員長・織島病院）

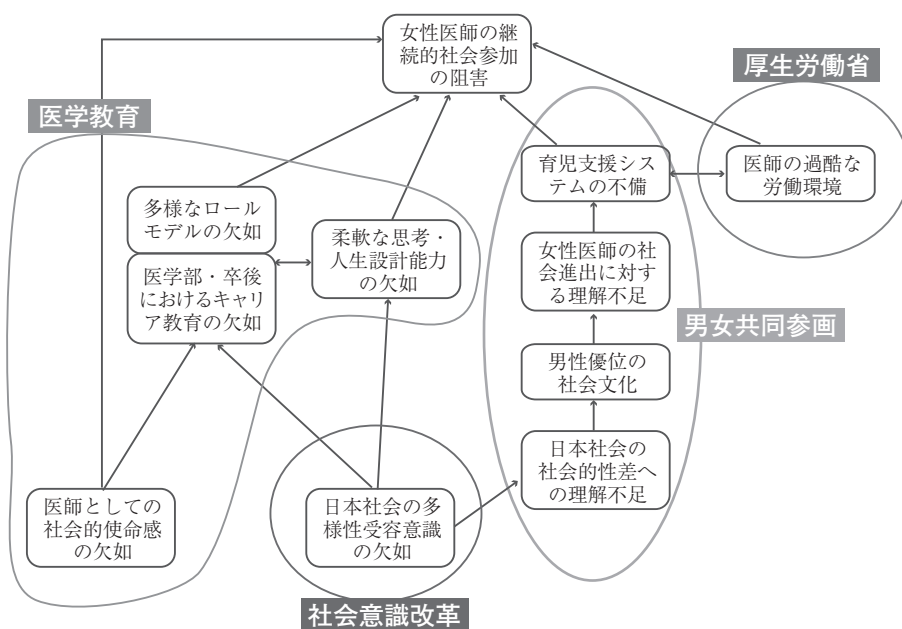


図1 PCM手法を用いた女性医師問題の全体図

表1 到達目標（案）

- 1) プロフェッショナリズム
 - 1-1 医師という職業は、自己実現がすなわち社会貢献につながる非常に意義のある職業であることを学ぶ。
 - 1-2 医師になるためには、個人の努力だけではなく、多くの社会資源が投入されていることを学ぶ。
 - 1-3 医師という職業は、生涯にわたり継続的な社会貢献が求められていることを学ぶ。
- 2) キャリアデザイン（職業人としての将来設計）立案能力
 - 2-1 医師としての将来設計に必要な知識をえる。（専門医取得や海外留学などの具体的なプロセス）
 - 2-2 個人のライフイベントを職業人としての将来設計図に落とし込み、その影響を予測することができる
 - 2-3 医師としての将来設計図を複数描くことができる。（臨床、研究、行政、教育などの多様なコース）
 - 2-4 自分の将来設計図を描く。
 - 2-5 柔軟な計画修正能力を身につける。
- 3) 多様な価値観を受容する能力
 - 3-1 多様な価値観の存在を認める（自己と他者の価値観は異なることを認識する）
 - 3-2 異なる価値観と共存できる。
 - 3-3 異なる価値観のなかで協働できる。
- 4) 周囲の人々への配慮・支援
 - 4-1 他者への支援を惜しまず、かつ支援に対し感謝する心を養う（これまでの道德教育の確認）。
 - 4-2 職場における支援は、個人への支援のみならず、良質な医師を育てるという医師集団の責務でもあることを学ぶ。
 - 4-3 支援を受けた者は、自分個人への支援ではなく、一人の医師への支援であると認識し、その支援に対する対価は医師として支払うことを学ぶ。
- 5) 社会的性差への対応
 - 5-1 生物学的性差を正しく理解する。
 - 5-2 生物学的性差と社会的性差の違いを説明できる。
 - 5-3 自らに対する社会的性差を前向きに克服できる。
 - 5-4 自らの属する社会における社会的性差の排除に向けて努力する。

2013年2月に発足した特別委員会女性医師キャリア教育検討委員会の活動を報告する。

最初に女性医師問題の全体図を project-cycle management (PCM) 手法を用いて明らかにした（図1参照）。この全体図のうち、当委員会では「教育」に焦点を絞った教育プログラムを構築することとした。到達目標は、① professionalism, ②多様な価値観の受容, ③他者に対する配慮・支援, ④柔軟な対応能力, ⑤キャリアデザイン作成

能力, ⑥社会的性差 (gender) への認識, を大項目とした。表1に中項目（案）を示す。

次に学習時期についての検討が行われ、各時期における到達度（深度、広がり）、教育介入度、教育主体などの作成中であり、さらに適切な教育方法の紹介を行う予定である。

副委員長：小林志津子，委員：清水貴子，石黒直子，榊原秀也，秋下雅弘，協力委員：守屋利佳